

Subtle Taste and Elegant Simplicity

1
Date 2013.7.31



お昼の時間に、息子が昼寝の時間にはいたので、1週間前に、生井先生と一緒に味わった時間的空間を思い出し、私なりに静寂な雰囲気の中で一丁の豆腐をゆかり味わう時間を設けた。

飲み物を用意せず、150gの豆腐をゆかり噛んで、気付いたことは、今まで豆腐をじっくり味わって食べてきたのだろうか？という疑問。

生井先生より頂いた豆腐の味わい比べると、私の調理は苦みが強かたが、非常に美味しく感じ、30分間の短い時間ではあったが、幸せを感じた。

この30分の間におもったことは、人間は、心の状態が清らかた落ちついていれば、目の前の小さな事に対して盲目になることなく、自分に与えられた生に対して、心から感謝することを決して忘れないということ。

豆腐一丁を食べて幸せを心から感じるということは、今まで特になかつたとおもう、それは与えられた生に対して、当たり前という考えが心のどこかにあつたがりではないかと反省した。今回は木がと生姜の苦みが、私の思索のいいスパイスになつたように感じる。



私は、astringency (収斂) という言葉、意味を知らなかった。
7月24日水曜日の特別追加レッスンが終了後、辞書で調べてみたところ、①収縮すること ②異なった系統が、互いによく似た形態的特徴を進化させること、と記されていた。

一丁の豆腐を味わいながら収斂を静寂に知覚しようとしたが
まだ、よくわかっていない。

ただ、先日、生井先生より実際に経験をして学ぶって「事が大切だ」と教えて頂いたので、継続的に深遠なる味わいを持つ時間を作って「こう」おもう。

今回、豆腐を味わっておもったことは、簡素化にあることで、大切なことが見えてくる、味が良くなるということ = 無駄を省く事が重要である。

生井先生に、やるべきことは的を絞るべきというお言葉を何度も頂いている。行動力の的を絞ることと同時に、自分の身の回りのこと、食べ物の簡素化、日々の生活の無駄を省いて、自分自身を向上させていきたい。1分でも、1秒でも無駄だとおもうことは省いていきたい。